

# 古沢町遺跡(市民会館)の古墳時代以降について

和田 英雄

## 1 はじめに

古沢町遺跡(市民会館)は、第1図1旧金山体育館の跡地に昭和45年度から3年計画で始められた市民会館建設工事によって発見された遺跡である。

この遺跡からは、昭和44年12月、旧金山体育館を取り壊して市民会館建設工事中に貝層が発見され縄文土器片が出土した。また地下鉄工事中には、パワーシャベルに挟まれた弥生土器片の纏まりが出土した。それぞれ「点」の調査であったが、名古屋市教育委員会から報告書が発行されている。(注1、2)

ところで貝層上部(工事により攪乱状態)からは、須恵器片、鉄製品、馬骨も出土しており建設工事中に採取した須恵器片などと併せて紹介することにより表題のことについて述べてみたい。

なお第1図2及び3は、古沢町遺跡として発掘調査が実施され古沢町遺跡発掘調査概要報告書または古沢町遺跡発掘調査報告書として報告されていることから、これらとの混同を避けるため古沢町遺跡(市民会館)として述べることにした。「市民会館」は平成19年7月1日、「中京大学文化市民会館」と名称が変更となっているが簡略して表題の遺跡名とした。

(本文中に用いる年号については、西暦年号に統一することなく文献のとおりとした。)

## 2 周辺遺跡の発掘調査

名古屋市における遺跡発掘調査は、平成時代になると古沢町遺跡(市民会館)周辺においても数次に亘り行われ(第1図)、概要報告書、報告書が発行された。それらを挙げると下記のとおりである。

平成6年5月16日から平成6年9月30日までの間、市民会館北側のビル建設に伴う発掘調査が実施されて弥生時代後期の方形周溝墓2基、竪穴住居跡2棟などが検出され、弥生土器・須恵器・瓦などが出土している。

(第1図2)(注3)

平成14(2002)年12月2日から平成15(2003)年3月20日および平成15(2003)年11月4日から平成15(2003)年12月26日までの間、日本たばこ産業株式会社(JT)によるビル新築工事に伴う事前調査が行われ、竪穴住居跡、土坑が検出され、主に須恵器・山茶碗が出土している。

(第1図3)(注4)

2003年9月16日から2004年3月31日までの間、金山北地区開発のため、名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋市都市整備公社が朝日航洋株式会社に委託して第一次発掘調査が行われ、方形周溝墓・竪穴住居跡が検出され、弥生土器・須恵器・土師器・瓦などが出土している。

(第1図4)(注5)

2003年12月17日から2004年3月25日までの間、金山北地区開発のため、名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋市都市整備公社が国際航業株式会社文化財事業部(中部事務所)に委託して第二次発掘調査が行われ、竪穴住居跡が検出され、弥生土器・須恵器・土師器・瓦などが出土している。

(第1図4)(注6)



第1図 古沢町遺跡(市民会館) 1 と周辺遺跡

2:古沢町遺跡(市民会館北)、3:古沢町遺跡(日本たばこ産業株式会社)、4:金山北遺跡、7-19:正木町遺跡、7-20:伊勢山中学校遺跡、7-22:尾張元興寺跡、7-23:東古渡町遺跡

「名古屋市遺跡分布図(中区)」より抜粋、加筆

以上、第一図に示したように古沢町遺跡(市民会館)の北側、南側において発掘調査が実施されてきたが、市民会館建設工事及び地下鉄工事中に縄文土器片、弥生土器片を拾い、周辺遺跡発掘調査結果には関心があり、特に金山北遺跡発掘調査については大いに関心があったことが

ら、報告書の購入について名古屋市教育委員会に問い合わせると販売していない、図書館に在るとの回答であった。

金山北遺跡第一次及び第二次発掘調査については、名古屋市教育委員会・名古屋市見晴台考古資料館指導監督の下に、朝日航洋株式会社及び国際航業株式会社文化財事業部(中部事務所)が調査を実施して名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋都市整備公社が報告書を発行した。

調査情報は、調査関係機関や一部研究者に対して提供するのではなく、考古学を職業としていない古代遺跡に関心を持つ一市民に対しても報告書の販売という形により提供してほしい。名古屋市教育委員会・名古屋市見晴台考古資料館は、名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋都市整備公社に対し報告書の販売について要請してほしかった。

### 3 古墳時代古代遺物

昭和44(1969)年、市民会館建設工事の際、「点」の調査であったが、掘り起こされた土砂の中から須恵器片、瓦片などを採取した。また地下鉄工事中に須恵器片、瓦片などを採取している。関係方面により第一次古沢町遺跡調査とされているものである。

25年後、1994(平成6)年、市民ホール北側のビル建設に伴う約1,400㎡に及ぶ「面」の調査、第二次古沢町遺跡発掘調査が実施され須恵器、瓦が出土している。

古沢町遺跡発掘調査概要報告書(第二次古沢町遺跡発掘調査)(注3)に接し刺激された私は、古沢町遺跡(市民会館)から出土した須恵器片、瓦片などについて述べることにするが、私は考古学を職業としていない一市民であり、数次に亘る古沢町遺跡発掘調査において出土した資料を実見できる機会もない。知見の乏しい筆者は、須恵器破片の形態、断面の色調から、これが陶器窯の製品の可能性があるとか、また初期須恵器に関し東山窯の段階に相当するとか判断ができないため、自身の資料整理技術、知識の基づいて述べることにする。

資料は工事中の掘り起こされた土砂から採集したものであり、層的な位置づけについて検討ができるものではないが、冒頭に述べた市民会館周辺の発掘調査により出土した資料の仲間に加えていただければ幸いである。

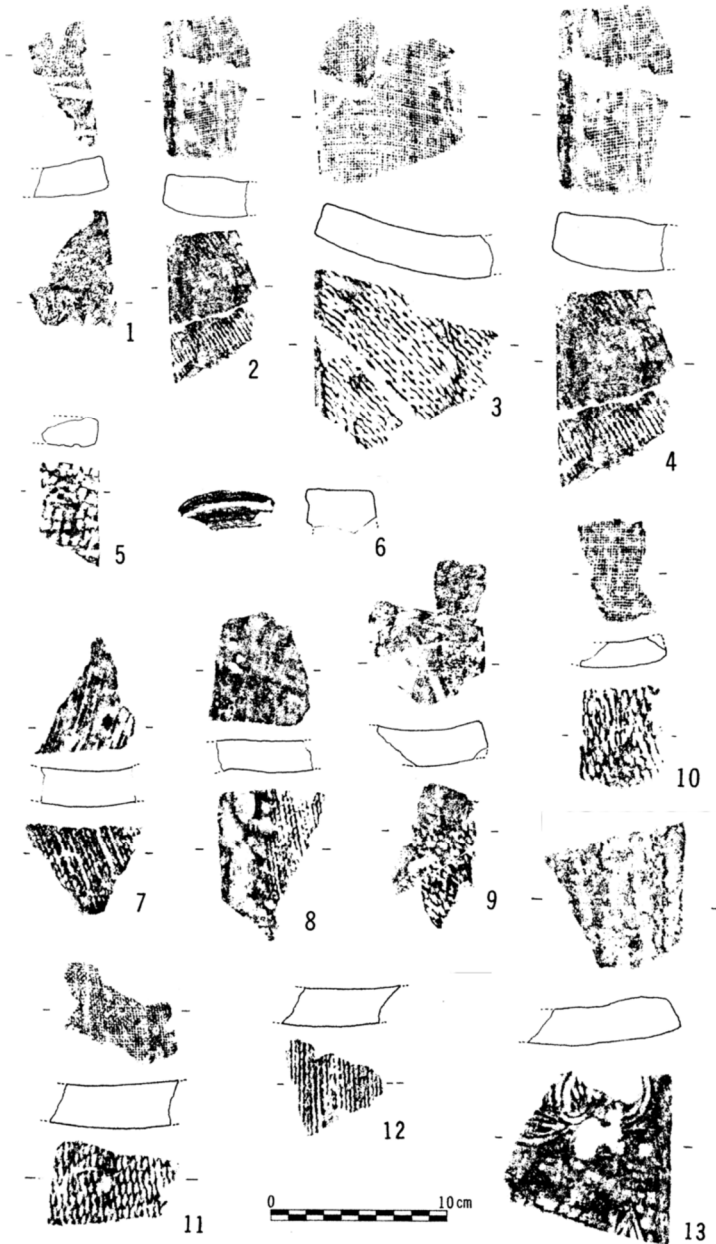
#### (1) 瓦

市民会館建設工事現場の掘り返された土砂の中から採取した瓦片は57片ある。そのうち23片はダンボール箱に入れ、名古屋市中区正木町公園整備工事中に採取した瓦片を入れたダンボール箱の上に置き保管していたが、ダンボール紙の経年劣化に湿気が加わり底部が破損して正木町公園整備工事中採取瓦片と混じってしまった。土砂の付着状態、形状から現状に戻したが、万が一、正木町公園採取瓦片が混入していることを考慮し23片については報告しない。

今回、報告するものは、別に保管していた34片中、実測可能なもの13片を図示した。破片

のみで全体の形が分かるものはないが 12 片には布目痕、縄目痕、格子目痕がみられる。

私は小さな瓦片から瓦の機種を判定する能力がないので 6 を除き全て凸面を下向きに図示することとした。4 は燻し焼きによる黒色を呈している。5 は格子の叩き目と凹面に細かい布目が

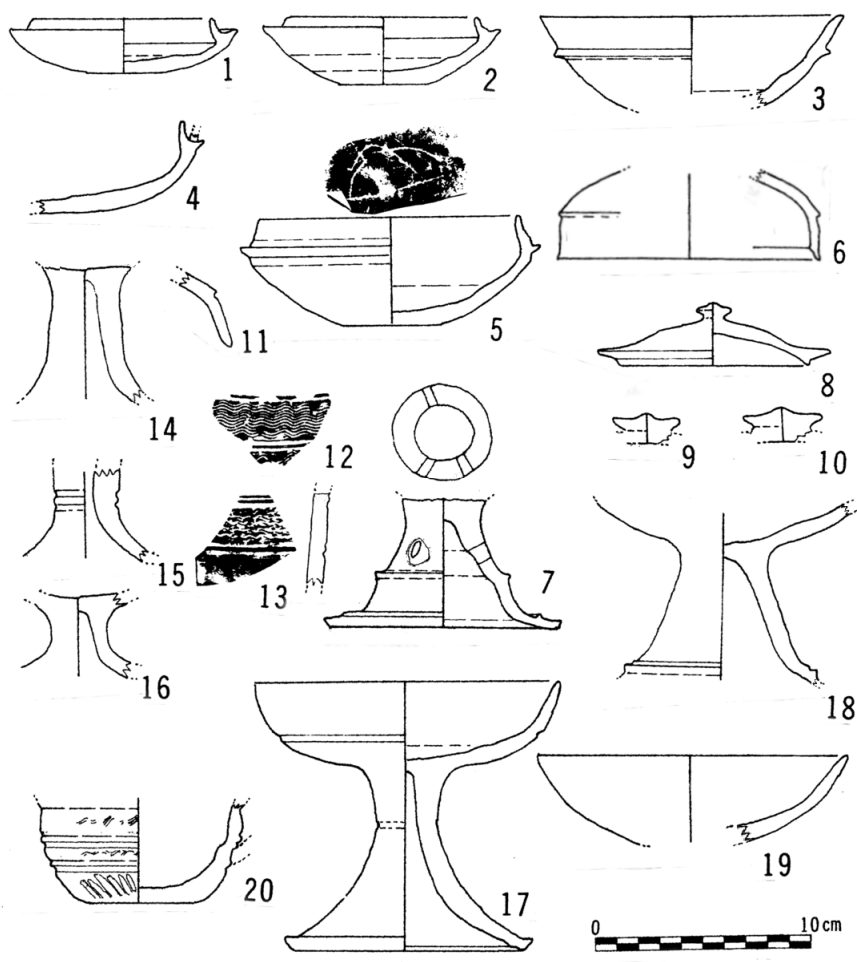


第2図 瓦

みられ側面は、へら状具により調整されている。胎土は蜜で焼成もよく黄褐色を呈している。6は直径約14cm～15cmの軒丸瓦破片を想定している。周縁側面は凸凹面をナデにより面調整している。12は凹面に布目痕が見られない。摩滅したものか。13は軟焼成のため磨耗が甚だしく凸面には花紋叩きがみられ凹面の布目痕もかすかに観察できる。灰白色を呈している。

## (2) 須恵器 他

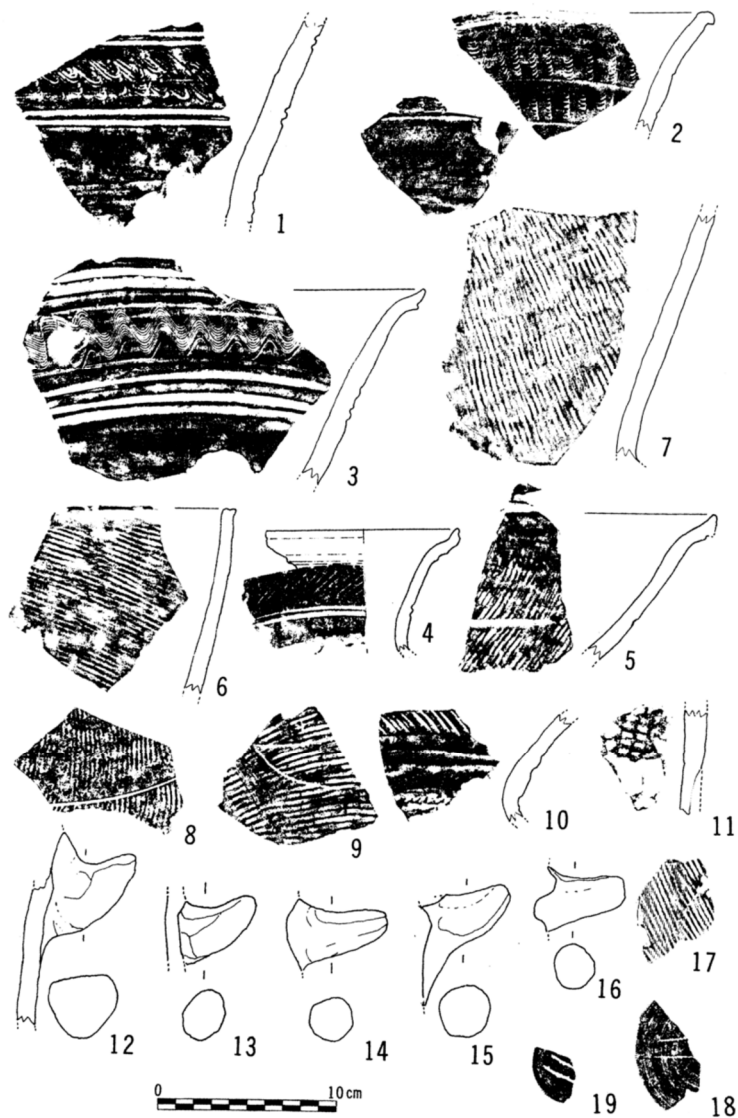
須恵器片などは、工事現場を覗き目に付く大きなものを採取した約135点の破片資料でありそのうち実測可能なもの39点を第3図及び第4図に示した。



第3図 須恵器

第3図4は焼成時の坏蓋の癒着の痕跡が見られる。5の坏体内側底部には、篋描きの記号が

見られる。記号は半円形に山形の記号を重ねて描いていることが看取できる。記号は第4図9  
 甕胴部にも見られる。7は透かし孔を図の上に示したごとく3方向に穿っている。透かし孔周  
 囲には、篋状具により薄く削り取り穿孔位置（アタリ）を定めたと考えられる痕跡が見られる



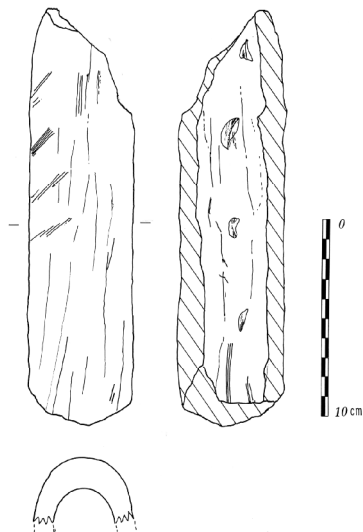
第4図 須恵器 他

が、穿孔後の調整の跡とも考えられる。胎土は赤褐色を呈している。3と18の胎土も褐色を呈  
 しており同一固体と考えられる。13は透かし孔の一辺の破片である。20は器外面に把手を貼り  
 付けた痕跡が観察することができ内面には把手貼り付け時に押し出された凸面が観察できる。

第4図2は櫛状具による波形の列線文が見られる。4は右傾の櫛状具による押捺文が見られる。18,19は底部である。

### (3) 筒型土製品

表面採取資料である。器表面は篋状具により滑らかに調整されており両端部に黒斑もみられ胎土も弥生土器と見紛うほどであるが、器内面は火炎により変色しており布目の跡が観察できる。また4箇所凹部には、布の絞り痕が観察できるが芯型に布を巻きつけ留めた痕跡である



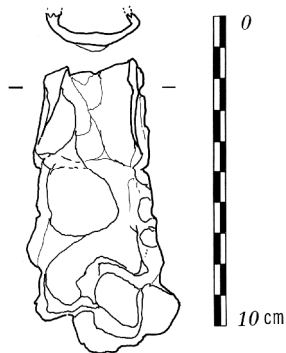
第5図 筒型土製品

うか。

周辺遺跡における筒型土製品の出土例は、伊勢山中学校遺跡、古沢町遺跡（日本たばこ産業株式会社跡、第一図）から出土しているが(注4)、第6図資料は、胎土、焼成、造り方も異なっている。用途、年代について検討したい。

資料紹介である。

### (4) 鉄製品

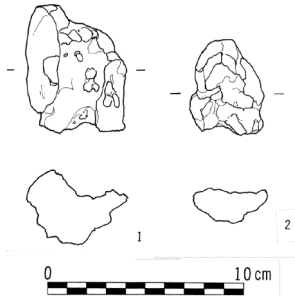


第6図 鉄製品

古沢町遺跡(市民会館)2号溝から出土したものである。鉄製品は当初、馬骨と共に出土した関係から杏葉ではないかと話題になったが、洗浄後、柄に仕込む部分が造りだされていることが判明した。全体に腐食(錆)が酷く原型を保っていないが、私は手斧(ちおうな)を想定している。

## (5) 鉄滓

2点出土している。「F - 2 D、平行黒土」から出土したことが記録されている。馬骨、鉄製品が出土した周辺部からの採取品である。



第7図 鉄滓

第6図1は、5.0×6.3 cm、重量は110 gである。図左面には炉内に接していたと考えられる滑らかな面が観察できる。4 mm×3 mmの気孔も見られる。

第6図2は、3.7×4.7 cm、重量50 gである。

## 4 おわりに

台地西側縁には、断夫山古墳、白鳥古墳が築造されており、この地域は、早くから初期須恵器を受け入れ、渡来系の文化の混在が認められると言われ(注7)、古墳時代、古代の遺跡は、名古屋台地西側に沿って展開している(注8)といわれていた。しかし古沢町遺跡(市民会館北)、古沢町遺跡(日本たばこ産業株式会社)、金山北遺跡の発掘調査が実施され、尾張「古渡遺跡群」として見直されるようになった。(注9)

今回、空白となっていた古沢町遺跡(市民会館)について、須恵器片、瓦片などを紹介することにより、古墳時代、古代にも周辺遺跡と同じように、第3図4に見るごとく蓋坏組み合わせ焼成時の癒着品までも消費する集落が形成されていたことが明らかになった。

古沢町遺跡(市民会館)調査中に名古屋市教育委員会文化財係Y氏が、出土中の馬骨をみて「これで新溝が古渡ということになる大きな手掛かりに--」と思ったことについて大野一英氏が名古屋の駅の物語(上)に紹介している。さらに大野一英氏は、飼馬と官の駅舎の風景を目に浮かべ、かなりの集落があったことを描いている。(注10)

馬骨の出土のみで「馬十疋」が置かれていたか分からないが、台地東縁遺跡群の一つとして成立していたことは確かである。

周辺遺跡では、布目瓦、平瓦、花紋叩瓦が出土すると「願興寺」、「尾張元興寺」に由来して遺跡地点に運ばれてきたもの(注4)、または関連を推定したり(注5)、さらに「尾張元興寺が存在する範囲の再検討、あるいは尾張元興寺とはその性格を異にする遺跡の存在を考慮する必要性」(注3)を述べたりするものがあるが、明治11年1月刻成による愛知県第一区、名古屋並熱田全図(74×59cm)には、熱田台地西側に泰雲寺、元興寺が、また古沢町遺跡(市民会館)付近には4寺院の存在が示されている。



しかし、これら寺院名が、刻成図であり色褪せにより判読できないため、2007.3.28 発行、名古屋城下図調査実行委員会(名古屋市博物館)製作編集、名古屋城下デジタル復元図、弘化4(1847)年地図により確認してみたところ、西南方向 500mの位置に尾張元興寺が、同じ方向 200mの位置には、休玄寺、円立寺が存在し、北西 200mの位置には妙住寺、靈山寺が存在している。図 7-22 尾張元興寺との関連を検討するよりも丸瓦(第2図6)などの出土により古代寺院の存在を考えたい。

#### 注

- (1) 吉田富夫・和田英雄「古沢町遺跡発掘調査報告書 I 縄文時代編」名古屋市教育委員会 1971
- (2) 和田英雄「古沢町遺跡発掘調査報告書 - 弥生時代編 - 」名古屋市教育委員会 1974
- (3) 名古屋市教育委員会「中区金山一丁目、古沢町遺跡発掘調査概要報告書」1995
- (4) 名古屋市教育委員会「埋蔵文化財調査報告書 50 古沢町遺跡第3次・第4次」2004
- (5) 名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋都市整備公社「金山北遺跡第一次発掘調査報告書」2004
- (6) 名古屋市住宅都市局・財団法人名古屋都市整備公社『金山北遺跡金山北地区開発事業に伴う第2次発掘調査報告書 名古屋「熱田台地遺跡群」古代集落の調査』2004年6月
- (7) 名古屋市見晴台考古資料館「【特別展】発掘された名古屋の五世紀」1997年11月
- (8) 犬塚康博「大須二子山古墳の復元的再検討」研究紀要第13巻 名古屋市博物館 平成元年度
- (9) 早野浩二『尾張「古渡遺跡群」の形成過程とその構造』第16回考古学研究会東海例会「古墳時代集落研究の再検討 ～前期から中期の集落群を考える～」講演会資料 2011.2
- (10) 大野一英「名古屋の駅の物語(上)」中日新聞本社 昭和55年1月23日

( 文献5・6については、名古屋市見晴台考古資料館から借用したものである。 )